

# 人と文化を守り育て 情報発信するまちづくりを

置戸町議会議長 佐藤 純一



新年あけましておめでとうございます。

輝かしい新年を皆さまそれぞれご壮健にてお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

平成も節目の30年を数えましたが、その反面、昭和が懐かしい時代として少しずつ遠くなっていくようにも思える年の初めでもあります。

さて、昨年を少し振り返ってみたいと思い、町の二つの出来事を取り上げてみます。

一つ目は、おけと勝山温泉「ゆうゆ」のリニューアルについてです。20年を経過し、5億円を超える改修費用を要し、多くの町民の関わりを求めたことから、有志による一般社団法人に指定管理を委ね4月にオープンしたことはご存知の通りです。職員の採用では町民やUターンも含め新しい雇用を生み、「地域おこし協力隊」の2名の応援も加わり、施設と同じく新しい雰囲気です。入込客の推移については、理事や職員それぞれの接客やPRなど努力と送迎用車両整備など町の協力体制もあり、当初の計画以上に順調に推移をしていると聞いております。2年目を迎える今年は置戸町の魅力の発信地の一つとして更なる展開に期待や注目が集まるところです。

二つ目は、前夜からの雨の状態で開催となった第41回おけと人間ばん馬大会についてです。雨天決行と謳っているとは言え、あまりにもひどい状況の中、チームの出場が心配されましたが、最後まで大会を盛り上げてくれた全チームの皆さんには本当に感謝の言葉しかありません。

一方、見方を変えると、当時の商工会青年部の皆さんが膝を突き合わせ試行錯誤の中から創り上げた、今や置戸町の伝統のお祭りと言っても過言ではない「人間ばん馬」大会に育て上げた関係者の皆さんが、積み重ねた努力の重たさを雨中の会場で改めて知ることとなった大会でした。

そして今年は、町の100周年を祝った行事の中でも大きな話題となった「オクトグリーンフェスティバル」が7月下旬の予定で再現されることとなりました。アーティストのパフォーマンスもさることながら、実行委員の皆さんのネットワークが前回と同様に大きな手応えと成果をもたらすものと期待をされています。

このように町の力を向上させるのは、やはりヒト、やる気のある人であり、次にモノ、天然・自然由来のものや文化や伝統を守り育てることであり、最後にそれらをつなぎ合わせた情報の発信とされています。これからも、それぞれが町のけん引役として発展することを望むものです。

町では第5次総合計画の終盤、そして第6次計画の策定へと続く時期を迎え、これからの町づくりに向けハード、ソフトの両面にわたる様々な事業計画に住民の皆さまの意識を反映させるべく、私達議会も議論を重ね広い見地から判断が出来るよう努力して参ります。

結びになりますが、本年が皆さまにとってより良い年でありますことをご祈念し、置戸町議会からの年頭のご挨拶といたします。